

開催にあたって

日本生命財団は昭和54年に人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資することを願って、日本生命により設立されました。

設立以来、助成の柱のひとつとして、「人間活動と環境保全との調和に関する研究」をテーマとして、環境問題に関する研究助成を行っております。毎年実施してきた研究助成は、これまでに**32回、累計で991件、助成総額24億9千2百万円**に達しています。

当財団はこれらの研究がさらに進展し、研究者間の交流や情報交換が円滑に行われることを願い、併せてこのテーマに関心をもたれる方々の意見交換の場を提供するため、「助成研究ワークショップ」を開催いたしておりますが、このワークショップも今回で第26回目を迎えることとなりました。

今回のワークショップでは、「人間活動と環境保全との調和に関する研究—都市と環境の調和が持続する社会をめざして—」を募集課題とする学際的総合研究助成に採択された研究チームから、その研究成果をご報告いただきます。

地球の歴史は46億年ですが、わずか500万年前に誕生した人類が現在では70億人を超えるに至っています。ヒトを含む動物は、食糧や酸素を植物＝生産者に依拠し、死後は土壤中の分解者に分解されて、生産者に利用されます。バランスのとれた生態系では食物連鎖のピラミッドは安定した三角形をなしますが**コンクリートに覆われた都市は頂点のヒトだけが突出したアンバランスな生態系**といえます。そしてなお私たちは大量のCO₂を放出しながら、食糧を農村に、酸素を森林に依拠して暮らしています。これは都市と自然の永続可能な関係とは言い難いものです。

大阪府交野市に位置する大阪市立大学理学部附属植物園は、全国で唯一つ日本の11の森を再現・展示しております。今回の研究ではこの植物園の森をフィールドに、森のCO₂固定の役割や、そこに棲息する動植物の多様性を明らかにしたうえで、研究から得られた成果を観察会やワークショップの形で市民に還元し、**都市と森の永続可能なあり方を市民と共に探り、共有**することを目的としております。

まず、代表研究者の大阪市立大学の植松 千代美氏から、研究の趣旨を説明いただき、次に「植物園の森のCO₂固定機能」「植物園の動物相」「植物園の草本植物・シダ植物とその保全への役割」という3分野に分けて合計10の課題について発表いただきます。その後休憩をはさみまして総合討論を行います。

会場の展示コーナーでは研究成果や森・動物・植物の写真をパネルで紹介いたします。森の植物園を訪れたことのない方にも植物園を感じていただければ幸いです。

今回のワークショップの開催が、「**自然環境と調和した社会の実現**」のために、私たちが環境問題の解決や生態系の保全、地域社会の新たなあり方を模索し、第一歩を踏み出すきっかけとなることを強く願っています。

公益財団法人 日本生命財団

公益財団法人 ニッセイ緑の財団